

がん医療のこれから

チームであなたを支えます

食を通して向き合う

病院の管理栄養士は、食を通じて患者さんの早期回復のための栄養管理と栄養指導を行っています。

私たちは普段何気なく「食べる」という行動をしています。病気による心の動きやがんの存在、がん治療は食に影響を与えます。

抗がん剤治療の副作用や炎症などで、味覚異常や食欲不振がみられる場合があります。治療を続ける上で、体重や筋肉量を落とさないために食事は大切ですが、「がんばって食べよう」と思うあまり、食えることがつらくなった

という声も聞かれます。

がん化学療法チームには管理栄養士も参加し、医師、看護師、薬剤師、MSW(医療ソーシャルワーカー)の多職種と連携を図り、入院中はもちろん退院後も患者さんと積極的に関わるようにしています。患者さんや患者さんの家族との会話からヒントを見つけ、一人一人の体調に合わせた食事のアドバイスに努めています。

治療を進めていきながらも、生活の大きなウェイトを占める食事が少しでも満足できるよう、悩みがあるときは、管理栄養士にご相談ください。



管理栄養士

林 元子 さん

室蘭市出身。42歳。昭和女子大学短期大学部を卒業後、民間企業での勤務を経て、市立室蘭総合病院の医局栄養科で勤務。管理栄養士、糖尿病療養指導士。